

令和7年度 卒業式 校長式辞

校舎から見える蔵王の山々や白鷹丘陵に残っていた雪がいつしか薄れ、春の息吹を日ごとに感じる季節となりました。体育館に差し込む柔らかい日差しも、今日の旅立ちの日を祝しているように感じます。

この佳き日に、本校PTA会長 渡辺 彰様、山形県議会議員 伊藤かおり様、山形市議会議員 高橋 公夫様はじめ、本校学校運営協議会委員のみなさまにご臨席を賜り、卒業生の保護者の皆様に見守られながら、第五十一回の卒業式（卒業証書授与式）を挙行できますこと、誠に光栄に存じます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。ただ今、皆さん一人ひとりに卒業証書を授与いたしました。首をふって、ゆっくりとまわりを見てみましょう。三年間、お世話になったこの校舎、この風景、そして一緒に学んだ仲間をしっかりと心に刻みましよう。なおりました。

それでは、卒業証書を開いてください。左上に番号が書いてありますね。みなさんの番号は？ それはあなただけの番号です。第1回の卒業生からずっとつながっている番号、誰一人欠けてもつながらない、そして後輩たちへと永遠に引き継がれていく番号です。今日、あなたは九中50年の伝統を紡ぐ一人となりました。「私は山形市立第九中学校の卒業生です。」と胸をはって言える

人生を歩んでください。

ちょうど皆さんが生まれた年、あるいはまだ一歳にも満たないころ、大きな地震がこの東北地方を襲いました。その五年後には熊本で、そして皆さんが中学一年生の正月には、能登半島で大きな地震が発生しました。困難の中で、被災地の人々は深い悲しみと向き合いながらも、復興に向けて手を取り合い、今日まで未来をつくり続けてきました。その歩みは、皆さんに大切なことを教えてくれています。

「どんな困難も、仲間と力を合わせれば必ず乗り越えられる」「未来は、誰かに与えられるものではなく、自分たちの手で切り拓くものである」ということです。

人間には、その力が確かに備わっています。皆さんも力強く、新しい世界へと踏み出してください。校歌にある「希望は明るくこぞりて進まん」の精神で。

私は1年間だけでしたが、皆さんが最高学年としての姿をたくさん見てきました。特に今年は五〇周年という冠のつくさまざまな学校での活動や行事でリーダーとして活躍してくれました。九中初の県中女子駅伝大会出場をはじめとする中体連大会等での活躍、夏のごみ拾いボランティア、地区祭りへの協力、体育祭、合唱コンクールでのリーダーシップとあげればきりがありません。本当に素晴らしい活躍でした。

本日、卒業を迎えるみなさんに私から伝えたいことを3つお話

します。

1つ目は「相談する」ということです。これから生きていく中では、楽しいことばかりではありません。時には自分1人では抱えきれない不安や解決できないような悩みに直面することもあるでしょう。そんなときはどうか1人で悩まないでください。苦しむときはまわりに助けを求めて良いのです。相談することは決して恥ずかしいことでも弱いことでもありません。自分の悩みを相談することは勇気のいることです。しかし、ため込んでしまうと心が怪我をしてしまいます。心の怪我は治るまでに長い時間がかかります。なかなか治りません。「困ったことがあったら誰かに相談すること」「専門的な言葉では「援助希求力」と言います。苦しいときは、お家の方、学校の先生、カウンセラーや相談員、友達など信頼のおける誰かに話してみてください。きっとあなたの味方になってくれる人がいます。援助希求力はみなさんが自立して生きていくために必要な力の1つです。

2つ目は「みんな誰かの大切な人だ」ということです。ここで少しだけ後ろを振り返ってみてください。そこには皆さんの家族の姿があります。ご家族にとって、あなたは代わりのいない、かけがえのない大切な存在です。それは、あなたの隣にいるクラスメートも同じです。一、二年生の後輩も、もちろんここにいる先生がたも、来賓の方々も、この会場にいるすべての人が誰かの大切な人です。この世の中は「みんな誰かの大切な人」でできているといっても良いでしょう。それが想像できれば、おのずと人に

かける言葉が変わります。行動も変わってきます。

最後の3つ目は「センスオブワンダーを持ち続ける」ということです。「センスオブワンダー」とはアメリカの生物学者であり作家のレイチェル・カーソンの言葉です。カーソンは今から60年以上前に、自然環境を破壊したり、汚染したりすることの危険性について、世界にいち早く訴えた科学者です。センスオブワンダーとは、「神秘さや不思議さに目をみはる感性」と訳されます。花を見て、きれいだなと感じたり、生きものようすや形をみて面白いな、不思議だなと思ったりする気持ちです。初めて体験したことや自分が好きなことをしているとき「ワクワクするな」「嬉しいな」と感じることもセンスオブワンダーといって良いでしょう。この感性を忘れないで欲しいのです。カーソンはこのように述べています。「美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたびよびさまされると、次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。そのようにして見つけ出した知識は、しっかりと身につきます。「まさに学ぶことの原点といってもよいのではないのでしょうか。そして、センスオブワンダーを持ち続けられる人は強くもなれます。人にも優しくなれます。これからの時代はこれまで人々が経験したことのない予測できない、唯一の正解のない時代だといわれます。ICTはもちろん、生成AIなどもこれまで以上に発達し世の中がどんどん便利になってくるでしょう。例えば、

先日私が東京に出かけたとき、住宅街の中を当たり前に宅配用の無人ロボットが何台も道を走行していました。ここまでの時代がきたかと驚きました。このような時代だからこそ、このセンスオブワンダーを大事にしてほしいと思うのです。

さて、保護者の皆様、本日は、お子様の卒業、誠におめでとございます。今、このようにたくましく成長したわが子を目の前にして、感慨もひとしおのことと思います。この三年の間には、語り尽くせぬ多くの喜びがある一方、時には憤りを覚える程の諍いや涙するご苦勞があったことでしょう。しかし、どんなときにも決して見放さず、我が子と共に歩んでくださったこと、本校の教育活動に格別のご理解とご支援をいただいたことに感謝申し上げます、生徒の皆さん、感謝の気持ちを込めてお家の方に拍手を送りませんか。・・・あたたい拍手ありがとうございます。そして、皆さんがお世話になった人が左側の席に座っていますね。3年生の担任団の先生方、恐れ入りますが立ってください。拍手をお願いします。これからもお子様は新しい環境で、悩んだり迷ったりくじけそうになったりすることもあると思います。そんな時、すぐ手を出すのではなくお子様の自律を応援し、温かく見守り、支え、励ましていただきたいと思います。

地域の皆様、これからも「地域の宝、地域の未来」である子供たちを温かく見守ってください。さまざまな行事や活動へのご協力、ご支援、ありがとうございます。そして今後もよろしくお

願いました。

卒業生の皆さん、いよいよ、お別れのとぎです。最後に皆さんの新たな旅立ちに、谷川俊太郎さんの詩を送ります。

小学校教科書にありましたね。・長いので一部を読みます。

生きる

谷川 俊太郎

生きているということ

いま生きているということ

それはのどがかわくということ

木もれ陽がまぶしいということ

ふっと或るメロディを思い出すということ

くしゃみすること

あなたと手をつなぐこと

生きているということ

いま生きているということ

泣けるということ

笑えるということ

怒れるということ

自由ということ

生きているということ
いま生きているということ
鳥ははばたくということ
海はとどろくということ
かたつむりははうということ
人は愛するということ
あなたの手のぬくみ
いのちということ

結びに、卒業生一二七名、一人一人にエールを贈るとともに、
これからの前途に幸多かれと祈り、式辞といたします。

令和八年三月十四日

山形市立第九中学校 校長 土井 正路